

北八ヶ岳山行報告

2009年2月28日(土)－3月2日(月)

メンバー：三枝良輔 (M3)

只左一也 (M2)

三谷知広 (M1)

1日目：茅野駅→(バス)→渋の湯→中山峠→
東天狗岳→中山峠→高見石 (幕営)

2日目：高見石→麦草峠→ロープウェイ駅→
北横岳→亀甲池→双子池 (幕営)

3日目：双子池→大河原峠→蓼科山→
女神茶屋→プール平バス停→
(バス)→茅野駅 (解散)

3日目 (3月2日(月))

起床	03:00	
双子池キャンプ場		05:15 発
双子池ヒュッテ	05:25 着	
双子山山頂	06:40 着	
大河原峠	07:30 着	09:55 発
(引き返し)	10:30	
大河原峠	10:45 着	
蓼科山荘	12:50 着	13:10 発
蓼科山山頂	13:50 着	
女神茶屋	16:10 着	
プール平バス停	17:15 着	
バスで茅野駅へ。茅野駅で解散。		
(歩行時間：8時間半)		

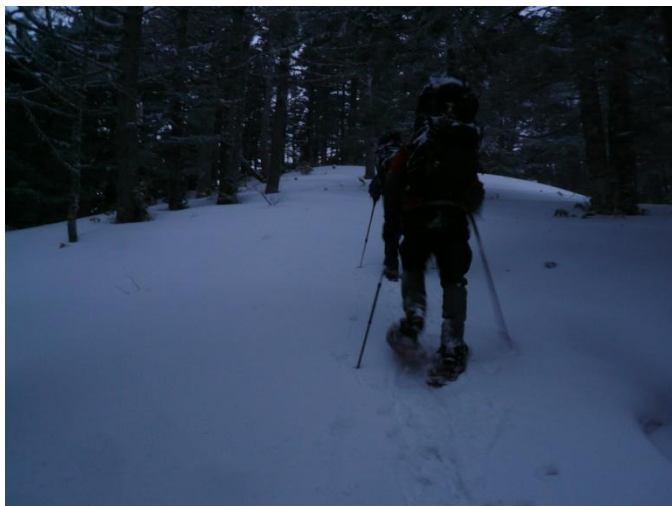
前日の夕方につけた気象図から晴れることを予想していたが、早朝に起床すると雪が降っていた。支度をして出発すると、本降りとなってきた。双子池ヒュッテの横に幕営していた同志社大学のパーティーが支度している脇を通り過ぎ、双子山へのなだらかな道を登ってゆく。トレースはなかった。次第に明るくなってきたが、ガスがかかっている視界は良くない。



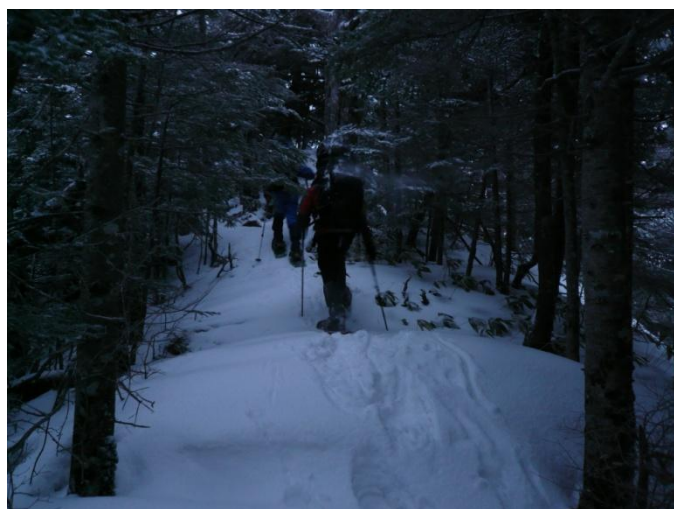
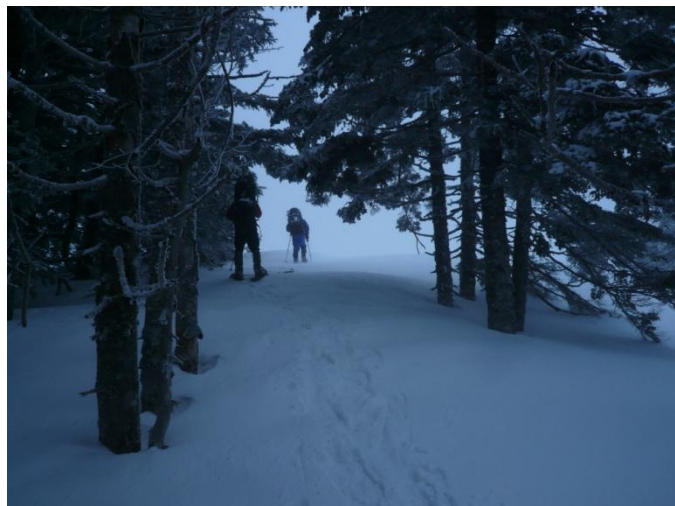
5時過ぎ、雪がちらつく中を出発



双子池ヒュッテ



なだらかな登りが続く



稜線沿いに進む



双子山山頂周辺は開けているが、ガスで視界は良くなかった



双子山山頂（2224m）

双子山山頂から一度樹林に入り、再び開けたところに出た。杭やロープがところどころに覗いているが、ほとんど埋もれていた。ルートは地形や方角からはっきり分かるし、マークも付けてあるので問題なかった。しかし、どんどん先を行きたがる M1 三谷はマークをしっかり確認しないで進み、地形や地図の判読力も不十分で、大河原峠までわずかというところでルートが分からなくなったようだったが、彼にとっていい勉強になると思って、彼にルートを探させた。30 分ほどうろちうろちして、ようやく方向の見当をつけ、マークを確認した。大河原峠まで、わずが 5 分ほどだった。



一度樹林の中に入り、



ルートの見当をつけて、マークを確認



再び開けたところに出た。三谷にルートファインディングの練習をしてもらった。周囲の景色は幻想的で、素晴らしいかった。



ちょっと下ると、すぐに大河原峠に着いた



ここで天気図をつけた



大河原峠



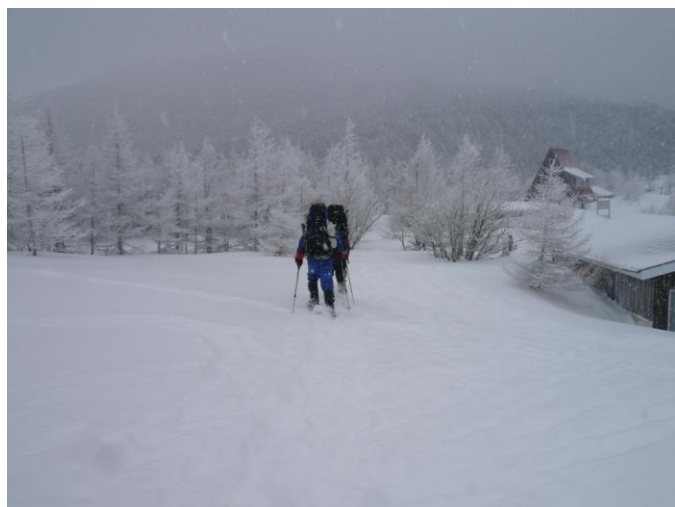
雪が降り続き、視界も良くないが、幻想的な景色で眺めていて飽きなかった

予想に反して、雪が止まず、視界も良くならないので、天候の様子を見ながら、9時の気象情報を待って、この先進むかどうか決めることにした。一度、薄日が差したが、すぐに雲に覆われてしまう。気象情報を聞いていると、同志社のパーティーが私たちの脇を通り過ぎた。

天気図をつけてみると、翌日からは明らかに崩れそうだが、この日天気が良くない理由は分からなかった。この先、トレースは全く期待できないし、途中のなだらかな場所でさらに天候が悪くなったらまずいので、下ることにした。

竜源橋の方へしばらく下って行くと、正面の方角がどんどん明るくなって青空が少し覗き始めた。しばらく様子を見てみると、ゆっくりとではあるが、青空の範囲が少しずつ広がって行くような感じだった。そこで、大河原峠まで引き返して蓼科山方面に進むことにした。





下山することに決めて、出発した



一度薄日が差したが、すぐに厚い雲に覆われてしまった。



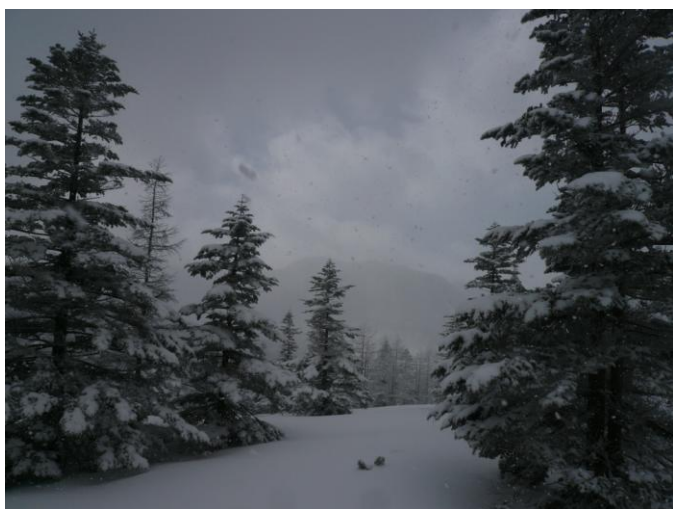
蓼科山方面との分岐点



竜源橋の方へ下る



青空も覗き始めた。正面の山は北横岳。



次第に空が明るくなってきた



大河原峠に引き返す



大河原峠に戻った。蓼科山方面へ進む。



同志社のパーティーのトレースがついていた

大河原峠に戻り、蓼科山方面に向かう。同志社のパーティーのトレースがついていた。

やや急な斜面を登って行くと、すぐに同志社のパーティーに追いついた。その先、全くトレースはなかったが、赤テープのマークが比較的しっかりつけてあった。ところどころ藪になっていたが、1か所分かりにくい場所があった他は、特に迷うようなことはなかった。

進むにつれ、どんどん青空が広がり、時々蓼科山の山頂も見えるようになってきた。

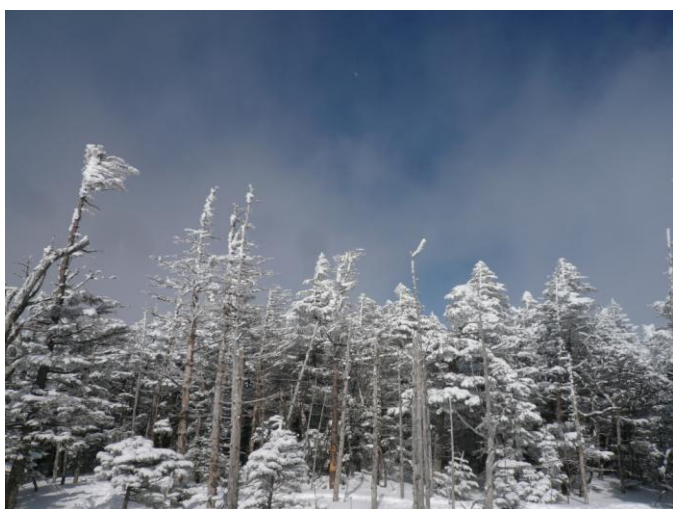




ところどころ少し藪になっている



蓼科山の山頂が姿を現した





正面に蓼科山



赤谷の分岐



遠くも見えるようになってきた。八ヶ岳南部の方向。

1 時前に蓼科山荘に到着。北から登って来たパーティーがここにスノーシューを置いて蓼科山頂を往復しているようだった。山頂を見上げると、4 人のパーティーが下りてくるのが見えた。

少し休憩し、昼食をとり、山頂を目指して出発した。次第に傾斜が急になるが、スノーシューで登り続け、開けた頂上部に出た。私は調子が上がらずバテバテだったが、小屋からは夏道タイムと同じ 40 分だった。



小屋前から蓼科の山頂を見上げる



蓼科山荘

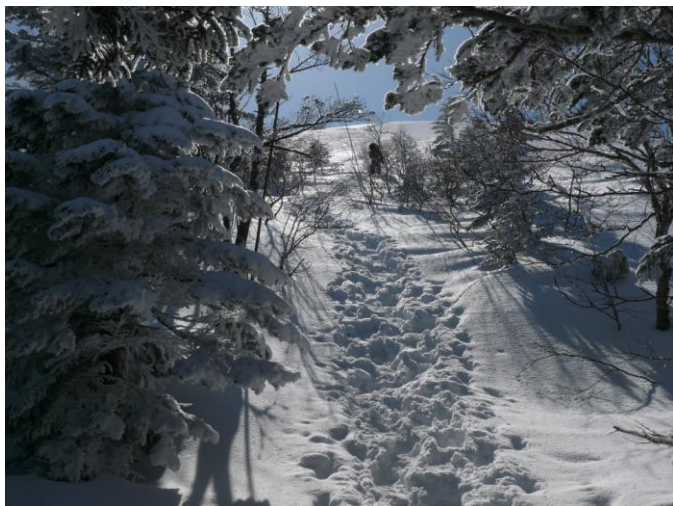


山頂に向けて出発。若い 2 人は、調子の上がない私を置いてどんどん行ってしまう。



雪に埋もれた入口





頂上直下の急斜面を登る

広大な山頂部に到着。蓼科山頂ヒュッテは雪に埋もれている。



最高地点を目指す



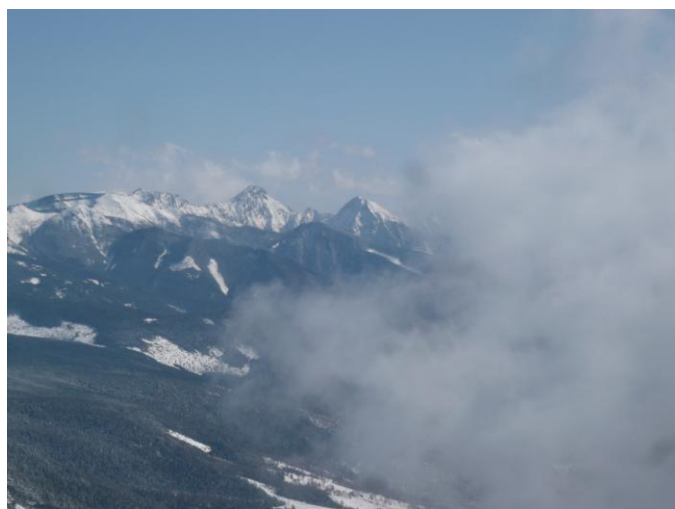
蓼科山山頂（2530m）で記念撮影。



祠があったので、天候の回復に感謝して、手を合わせた。

山頂で記念撮影をし、近くにあった祠を拝み、時間も遅かったのですぐに下ることにした。

小屋まで戻り、少し斜面をトラバースしたら、雪のないときに下ったら膝を痛めそうなすごく急な下りとなった。樹林帯の中を太い道がまっすぐ下っているので、滑れるところは尻で滑って下った。すっかり晴れ上がり、正面に八ヶ岳全体を眺めながら下るのは気分が良かった。引き返して本当によかった。



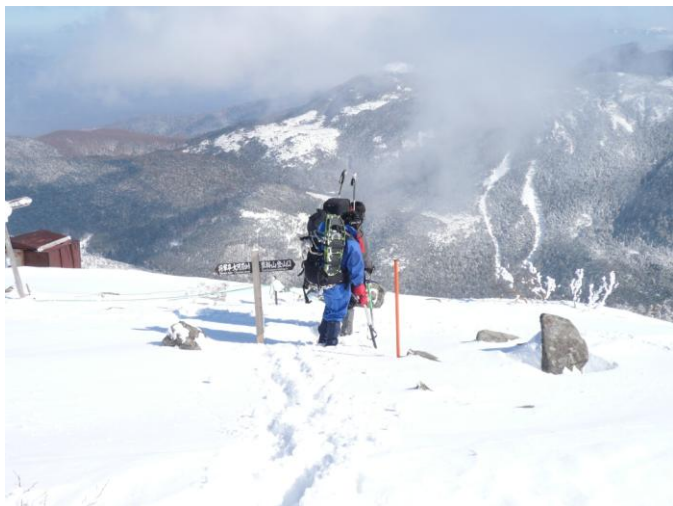
赤岳と阿弥陀岳



広大な蓼科山山頂



遠くに奥秩父の金峰山。手前は縞枯山と茶臼山。



時間が遅いので、すぐに下る



上を見上げると、紺碧の青空。



下りの最初は少し斜面をトラバース



雲の上に穂高が浮かぶ



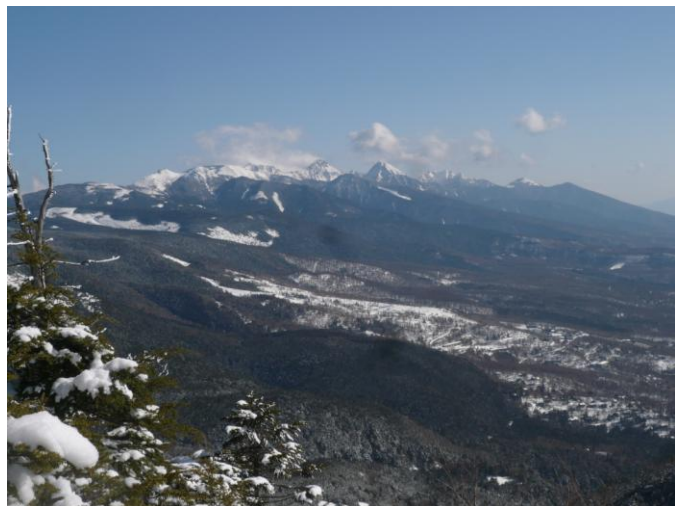
急な下りになる



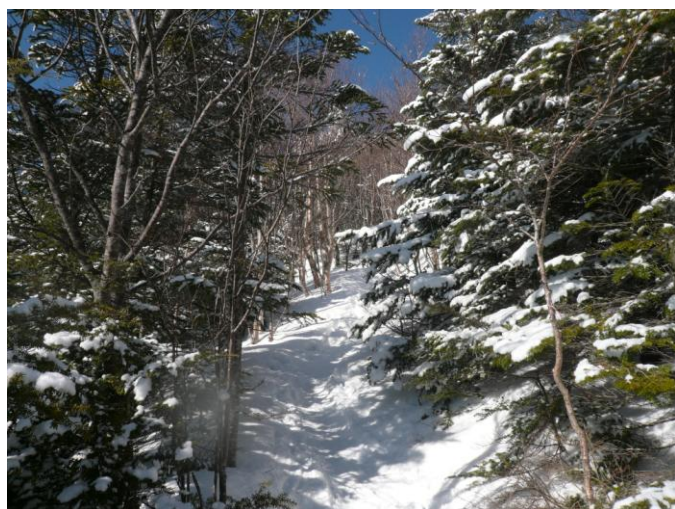
女神茶屋まではひどく急な下りが続く。シリセードで下れるところは滑って下った。



赤岳（左）と阿弥陀岳



南八ヶ岳全山を正面に望みながら下る



尻で滑って下るのに快適な斜面



傾斜がなだらかになった



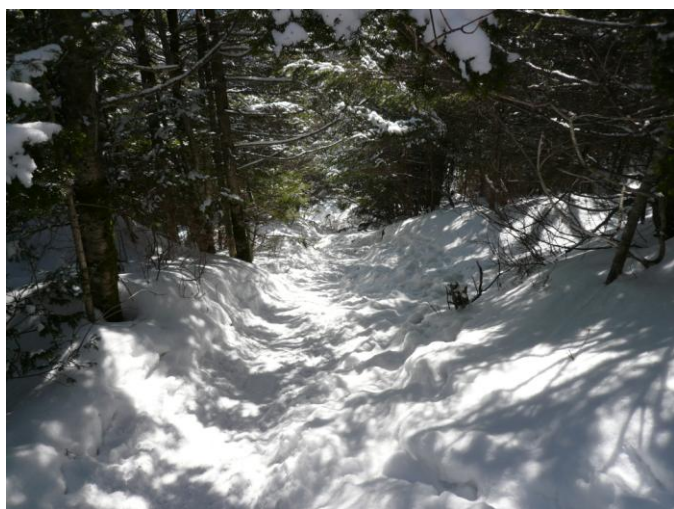
蓼科山を振り返る



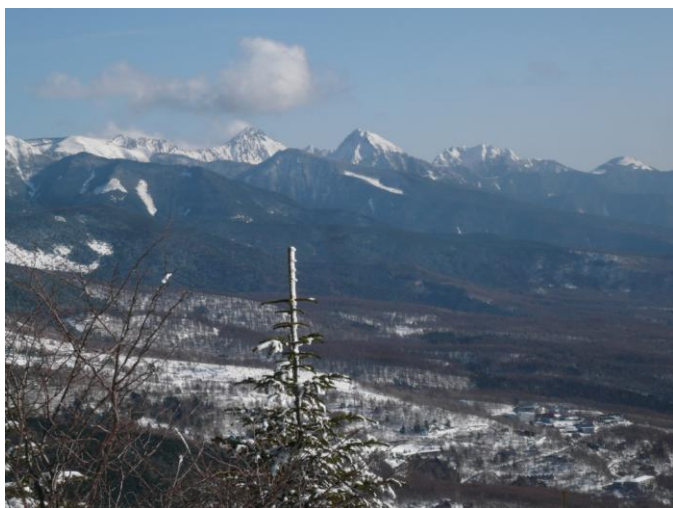
遠くに南アルプスが霞む



縞枯山



傾斜が再び急になる



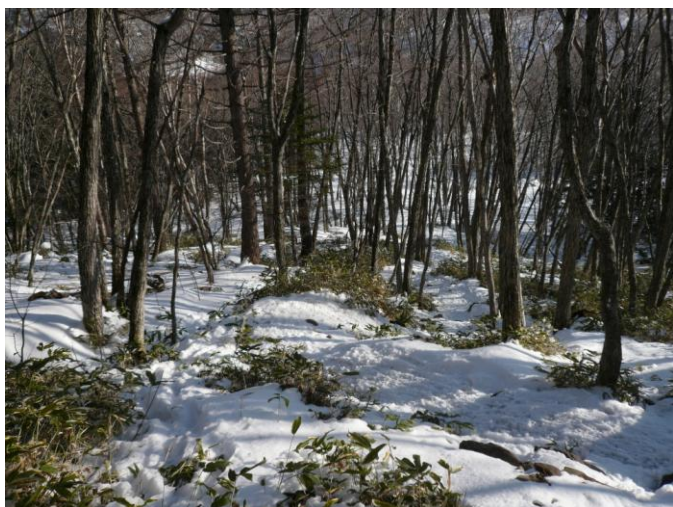
南八ヶ岳。右から編笠山、権現岳、阿弥陀岳、赤岳、横岳。



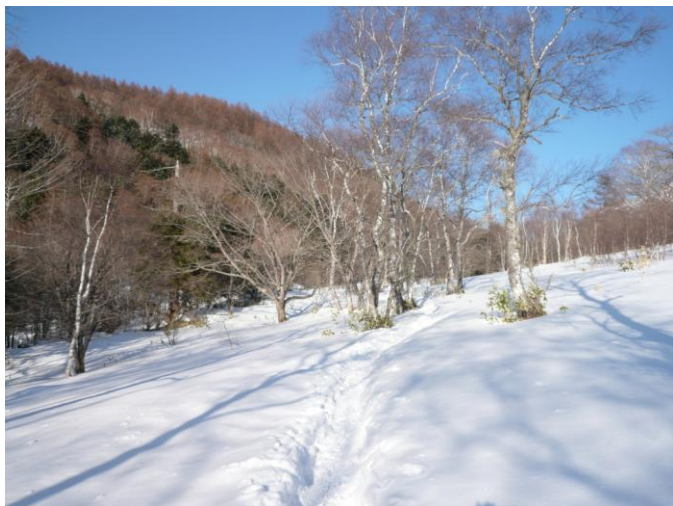
そして、再びなだらかな道となる



ビーナスラインに出た。ここにもバス停があるが、この時期はバスが運行していない。



女神茶屋



女神茶屋から蓼科温泉まで、信玄棒道と呼ばれる武田信玄ゆかりの道が続いている



疲れた上に空腹で脚が動かないが、バスの時間に間に合わせるために信玄棒道をひたすらてくてく歩く。

ビーナスラインの女神茶屋に出た。夏ならばここまでバスが来ているが、この時期はさらに1時間以上歩かなければならない。信玄棒道と呼ばれる武田信玄にゆかりのある道を歩く。トレースが歩きにくかった。ひどく疲れていた上に空腹で脚が動かなかったが、バスの時間に間に合うかどうか微妙な状況だったので、ひたすら歩き続け、プール平バス停に到着。何とかバスの時間に間に合った。

バスで茅野駅に出て解散、三谷は特急で、三枝と私は鈍行で帰京した。



プール平バス停に到着。バスの時間に間に合った。